



学校教育改革プロジェクト

【令和7～10年度】

“ウェルビーイングな学校をめざして”

「現状は…」

R6 全国学力・学習状況調査結果(全国平均100):【小学校】97.7 【中学校】97.6

● 児童生徒一人ひとりに応じた学習活動や課題に取り組む機会の提供を行い、児童生徒の学習意欲を高め、主体的な学びを促していくとともに、学力向上を図っていくことが必要

R5 不登校児童生徒数:【小学校】133人 【中学校】255人

● 学校教育活動の様々な場面において、児童生徒の自己肯定感や自己有用感を高めていくことが必要

R5 時間外在校等時間が1か月当たり45時間超の教員の割合:【小学校】27.8 % 【中学校】36.4 %

R5 教員一人当たりの1か月の平均時間外在校等時間:【小学校】33.9時間 【中学校】38.6時間

● 学校課題に対応する教員の負担軽減を図るため、業務改善を一層推進していくことが必要

「4つの改革を推進します」

【R7】先進校実施・研究 ⇒ 【R8・9】各学校で取組を推進・研究・事例共有 ⇒ 【R10】全市展開

教育課程改革 「5分短縮授業＋補充学習」

「小学校：45分→40分授業・中学校：50分→45分授業＋補充学習25分」

短縮授業を実施しない学校でも、学力の定着を図るため、補充学習の時間を確保していきます。実施校では、時間割の変更があります。

授業改革 「単元内自由進度学習」

児童生徒自身が学習計画を立てて、それぞれの進度で学んでいく学習方法

教員が単元のねらいや時間数、学習の流れや教材の紹介を行った後、児童生徒が自身の学習計画を立てて進めていきます。教員はその学びを支援します。

生徒指導改革 「スクールワイドPBS※」

望ましい行動を育てるため、場面ごとに行動目標を設定し、学校全体で取り組む肯定的な支援

問題行動に対して、それを罰するのではなく、学校全体ですべての児童生徒を対象とした肯定的な行動支援を行っていきます。

※PBS:Positive Behavior Support

学年・学級組織改革 「チーム担任制」

1学級1担任ではなく、複数の教員が学年（学級）全体を指導する体制

一定期間（週・月単位など）で担任業務（朝・夕の会、学級活動、給食、清掃など）を交代で担当します。

【R7】「AIドリル」「AI英会話（中）」「生成AI・学習アシスタントアプリ（中）」導入

「めざす姿は…」

意欲をもって、学び続ける児童生徒

＜個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実＞

誰一人取り残さず、児童生徒の豊かな学校生活や学び合いを支援する教員

＜肯定的な支援の充実・旧来の一斉授業からの脱却＞

すべての人(地域・家庭・児童生徒・教職員)が共に支え合う学校

＜持続可能な学校運営体制の構築(学校における働き方改革推進)＞